

第3章 事業別戦略

ミツミ事業

卓越した研究開発リソースとIoT関連デバイスに向けた豊富な製品ポートフォリオ

主要製品

- | | |
|-------|------|
| 精密部品 | 機構部品 |
| 光デバイス | 車載製品 |
| 電源 | 半導体 |

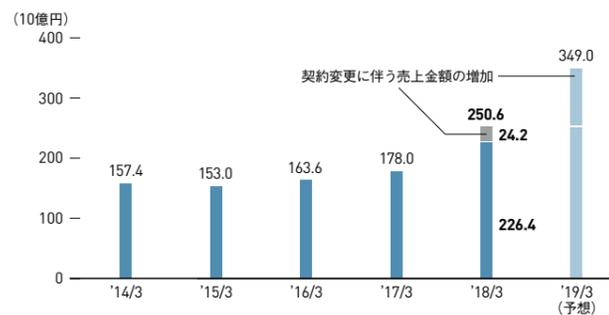


2018年3月期の概況

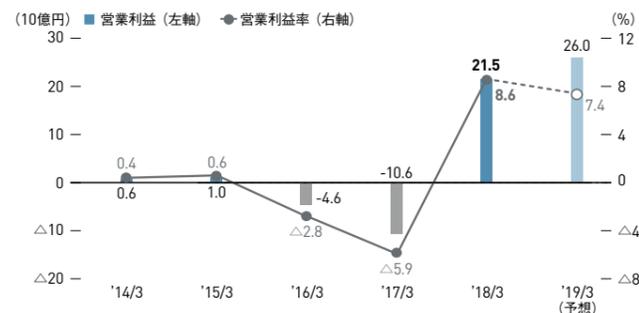
■ ミツミ事業 ハイライト

売上高前期比 40% 増収	営業利益前期比 約 200 億円 増益	ROIC 約 18%	1人当たり生産性 大幅改善 (経営統合前との比較)
開発エンジニアの数 約 50% (製造を除くミツミ事業全体に対する比率)	ミネベア事業との シナジー発見	製品ポートフォリオ 大幅拡充	次世代に向けた 新製品 多数投入予定

■ 売上高



■ 営業利益／営業利益率



当期の概況

第三の収益の柱として確立

コネクタ・スイッチ等の精密部品、カメラ用アクチュエータ等の光デバイス、電源、OEMビジネスを中心とする機構部品、通信モジュール等の車載部品、及び半導体デバイスのすべての製品で好調に推移しました。事業全体にわたって生産性が大幅に改善したことに加え、特に新型ゲーム機器が本格的な需要期を迎え出荷数量が大きく増加したほか、主要顧客向けカメラ用アクチュエータが増加しました。

この結果、売上高は2,506億円、営業利益は215億円となり、前期の経営統合前の期間も含めて、実質的に大幅な増収増益となりました。(前期のミツミ事業の実績は、経営統合をした2017年1月27日から2017年3月31日までです。)

「売上高」「営業利益／営業利益率」グラフに関する注記
 *1 2014年3月期～2016年3月期は、経営統合前の旧ミツミ電機の開示数値
 *2 2017年3月期は、仮にミツミ電機の連結が当会計年度の開始の日を完了したと仮定した場合の数値
 *3 2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期予想はIFRS

来期の見通し

シナジー効果で増収・増益を見込む

ミネベアミツミ全体の規模を生かしたシナジーを大きく創出し、競争力の強化とさらなる業績の向上を図ります。カメラ用アクチュ

7本槍戦略(ミツミ事業)

7本槍戦略の③～⑦

- ③ センサー
- ④ コネクタ／スイッチ
- ⑤ 電源
- ⑥ 無線／通信／ソフトウェア
- ⑦ アナログ半導体

ミツミ事業の収益安定化に貢献

7本槍製品の定義は、①市場規模が大きく、②市場が永続的であり、③当社コア技術を活かしたニッチ領域があり、④7本槍同士でのシナジーがあることです。7本槍のうち5つがミツミ事業に属しており、今後大きく成長させていく事業領域となります。

例えばコネクタは、通信の高速化等を担う重要なデバイスであり、市場規模は年間2兆円と推定されます。その中でも、車載向けで現在急速に増加しているFAKRA等の高速伝送品は、当社が最も得意とする非常に精密な機械加工技術が要求されます。さらに、コネクタは6LoWPANやノードなど、ミツミが保有する無線技術と組み合わせることでコネクティビティ向け

未来へ向かって

7本槍製品の相合がグループ全体の事業機会を創出

現在、ミツミ事業の成長の大きなドライバーとなっているのはカメラ用アクチュエータを中心とする光デバイス及びゲーム機器を中心とする機構部品であります。今後も積極的に両事業の拡販を進め、収益を最大化してまいります。

一方で、事業の絶対的な永続性の観点から、7本槍製品を構成するセンサー、コネクタ／スイッチ、電源、無線／通信／ソフトウェア、アナログ半導体を将来のコア事業として力強く成長させることが、ミツミ事業として最も重要な課題であると認識しています。そのために、光デバイス及び機構部品が生み出すキャッシュを成長原資として、7本槍製品を強化することが、ミツミ事業の基本戦略となります。その執行は、①有機的な成長、②これらの事業を包含する新製品の開

エータ等のスマートフォン関連製品では、高機能化が進む中で品質の維持と生産性の向上を図り、さらなる拡販を進めます。ゲーム機器関連製品では、生産性向上を追求し、業績の向上を図ります。アンテナ、通信モジュール、コネクタ等を含む車載製品では、新製品開発等によりラインナップを増やすとともに、資材、物流費等の原価低減を進め、さらなる拡販に注力します。

た複合デバイスとなり、これにセンサーやアクチュエータ(モーターと機構部品の組み合わせ)も融合することで、ソリューション型製品に進化させることができます。

このように、槍単独としての競争力を強化するのみならず、それぞれのシナジーを相合することで進化させ、新たな事業機会を創出してまいります。

各分野の取り組み

- ③ **センサー** — ひずみゲージとMEMSセンサー技術を中核に
 - ・熱／環境測定向けセンサーの深堀
 - ・ストレインゲージと合わせたIoTの重要部品としての事業拡大
- ④ **コネクタ／スイッチ** — キーワードは超精密・防水
 - ・防水タクティールスイッチのシェアアップ
 - ・車載用高速伝送品を中心にポートフォリオの大幅拡充
- ⑤ **電源** — 高信頼性／高機能でIoTを制す
 - ・新規市場：電力・蓄電市場向けマイクロコンバータの展開
 - ・既存市場：照明、情報通信、家電市場向け等で小型化・高周波化を推進し拡販
- ⑥ **無線／通信／ソフトウェア** — 車載製品を中心に市場拡大し、IoTにも対応する
 - ・コネクテッドカー向け次世代通信アンテナの早期開発と販促受注(TCUアンテナ等)
 - ・インド／スロバキア工場の活用
- ⑦ **アナログ半導体** — アナログ半導体はIoTの出入口
 - ・産業・住設機器市場向け付加価値製品の拡販
 - ・カーインフォタメント市場でのシェア拡大
 - ・高付加価値製品(ADC+IGBT)にフォーカス

発、③これらの事業を有効に活用できると思われる会社のM&Aを行うことで達成されます。7本槍製品は、槍単独としての競争力を強化するのみならず、それぞれのシナジーを相合することで進化し、新たな事業機会を創出することが非常に重要となります。

経営統合以降、すでにその成果が発現し始めています。その一例として、電子機器事業とのシナジーで生まれたフィルム型高感度ひずみゲージ「ミネージュ™」(28ページ参照)、ベッドセンサー(4、32ページ参照)等があります。そのほかにも、順次市場投入を予定している多数の新製品群があり、ミネベアミツミの収益を底上げしていくことが期待されます。

今後も、ミツミ事業の最大の強みである高周波技術や無線通信技術等の研究開発リソースを活用し、スマートシティ、ヘルスケア、ロボティクス等のIoT社会に貢献する革新的な事業活動をしてまいります。